それでは、届け出順に発言を許します。３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　皆さん、おはようございます。質問をいたします前に、本日の質問のこの大まかな項目は、まず１番目が、韓国人が今いっぱい来てくださっておりますが、何とか広くお金を落とせるような、そういう仕組みに変えたいと。

２番目は、特別支援学校の障害者の皆さんが、一般就労に就かせたいという大変難しい問題であることは十分承知しております。いろいろこの議会でも理事者側、議会、そして、市民の皆様、企業家の皆様、ハローワーク、学校、障害者就職センター、いろいろなところが連携し合って取り組んでいっていかないと解決方向には向かえません。そういった意味では、難しい問題でありますが、市長の考えるところ、未来像を語っていただくことが一番の解決の方法、よくなっていく方法になっていくのではないかと思っております。

それでは、通告に従いまして、質問をさせていただきます。

旅行関係の仕事をしていた「つたない経験」からお話をさせていただきます。現在、韓国人観光客が多くて話題になりませんが、対馬の国内観光の長年の課題は、皆様御存じのとおり、「通過型観光」と言われ、泊まるのは「壱岐」、対馬ではお金を落としてもらえないと言われております。

長引く不況、さらに「個人旅行の流れ」を受けて国内線の乗降客数は、平成七、八年をピークに減少の一途。せっかく海に囲まれた島に来たのに「おいしい魚を食べさせてくれない」など、悲しい評価を受けてまいりました。そのような低迷する状況の中で、受け入れ観光いわゆる「着地型観光」の担当をさせていただいておりました。トレッキングやシーカヤック、史跡散策、浅茅湾めぐりなどを旅行商品にして、インターネット等を使って営業。地元の定置網漁業など商品化できそうなものがあれば、「お客さんを送り込むから１０％の手数料をください」、そのような交渉をしてまいりました。今まさに韓国の添乗員から露骨な交渉をされていることと思いますが、韓国からの大きな流れがとまったとき、再び「通過型観光」とのそしりを受けないようにしなければと危機感を持っております。

ところで、ネット社会の今日、外国人が対馬のことを知ろうとするとき、まずインターネットで対馬を検索します。国内でも対馬の潜在的な魅力を発信することは、非常に難しいことと思いますが、言葉の違う韓国人に対してはなおさらであります。しかしながら本市には、外国人観光客に開放されている観光サイトはないとは言いませんが、あまり充実したものはないのではないでしょうか。今補正予算で提案してあります「観光アプリ」が構築できると、例えばホテル、食事、観光、レジャー、買い物等の検索ができ、地図でカーナビ的な案内をしてくれ、１人で韓国人が自分の携帯を見ながら行きたいところに行けるなどの機能が備わることになります。そして、何より、公衆無線ＬＡＮを置いたところに人が集まり、たまり場となって、その周辺が栄え、そ

こで観光アプリを見て、他の店へつながっていきます。一刻も早い事業の着手を望んでおります。

そもそも、対馬に韓国語を話せる人がほとんどいないというのは、国際観光地としては致命的な問題であろうと思います。それなら、韓国語をマスターしたら「お金を落としてもらえるだろう」。これも簡単にいかない大きな壁があると聞いております。まずは、漸進主義といいますか、今できることを粛々とやっていくことが大事で、観光アプリで韓国人観光客に我々がぜひ見せたいものを見せていく、そして、ハングル講座等で早急に語学力を身につけるときではないかと思っております。そして、韓国人が個人旅行の流れに変わったとき、本当の勝負のときで、そのとき慌てなくてもいいように、日本人・韓国人にとどまらず、万人に通用する観光地、観光システムをつくっておくべきであろうと考えております。

また、観光は、関連する産業のすそ野が広いため、経済の波及効果も高く、雇用も生み出すと言われております。対馬にはあまり歓迎をしない方もおられますが、明らかに恩恵を受けている業者等があり、それによって大きく雇用を支えていることも否めない現実であります。

私も観光の業界から遠ざかって、今を客観的に見てみましても、単品的にはいい素材があるなと感じておりますし、民泊も充実してきて、対馬らしい素朴な旅行の行程ができそうな気がいたします。確かに、単品ではお金を取りにくいものもありますが、組み合わせることによって商品価値が出てくるものもあります。「地域が主体」になってお一人お一人がもうける仕掛けを自由につくってほしいと思うとともに、トイレやごみの問題などにも行政にだけ一方的に向けるのはどうかと感じておるところです。議会でもよく「何とかならんのか」と言われるトイレ、確かに汚い、でも無理もないことだと思っております。観光地のトイレは、大抵がうっそうとした山際か、海の近くにあり、掃除をしても次の日にはクモの巣が張り、虫もたくさん入っている。業者の方に聞いたところ、本当にきれいにしたければ、毎日しないとだめだよと言われます。また、ごみについても、意外と地元の人が捨てたものも多いと聞いております。これからの「着地型観光」は、漁業体験や農業体験などを盛り込んだりするため、地域の受け入れ体制がしっかりしていることが大前提で、地域でつくり上げた企画であれば、トイレやごみの問題も自然となくなっていくのではないでしょうか。「もう一度行きたい観光地ランキング」というインターネット等で発表されていますが、「ずば抜けてきれい」というだけで有名な観光地になる時代になってきております。

「古民家」の事業も提案があっていますが、都会の人が田舎の「着地型観光」に望んでいるのは、立派な建物ではなく、整った観光地でもありません。農村や漁村のいつもの生活のリズムの中で溶け込みながらいやされることを望んでいます。

そこでお尋ねいたします。

１番目に、韓国人観光客を引き込むため、公衆無線ＬＡＮ　Ｗｉ―Ｆｉを増設、そして、韓国

語だけの対応と聞いておりますが、日本語も対応した「観光アプリ」の開設を早急に着手してほしいと思います。

２番目に、本市には、まだまだ隠された観光資源、観光客誘致のアイデアはふんだんにあるものと思います。行政主導の観光開発ではなく、市民の目線に立ったガイドブックにない身近な魅力ある観光コースや観光企画を、企画を競い合ってコンテストで採用するとか取り組んでほしいと思います。市長の所感をお伺いします。

次に、この春から対馬高校に虹の原特別支援学校が開学いたしました。市長、教育長をはじめ執行部の御努力に敬意を表します。３年前の一般質問では、就労支援までいきませんでしたので、その続きという角度で質問をさせていただきます。

国も障害者の雇用を促進しようということで、従来は３００人以上の大企業への就労支援ということが、これが２００人になり１００人になり、来年度からは５０人に、法律もそういう流れになってきました。本市において一番のポイントは、障害者が就労できるようになるという環境づくりからだと思っております。学校を通して発達障害、知的障害等の障害について、この島の中で正確な認識を持っていただくときではないかと思っております。そういう点では、企業家の皆さんへの啓発が非常に大事になってきます。

一方、学校においてはそんな悠長な考えは持ち合わせておりません。学校の威信にかけて、進路希望の実現を目指して着々と学習が進められております。本日１８日から２９日までの１２日間、１回目の就労体験実習に入り、企業に「仕事に取り組む姿勢を評価していただく」、いい評価を受けて次のステップへ向かいたいという先生方の意気込みを感じながらお話を聞いてまいりました。

さて、現在の本市の障害者の就労は、ハードルの高い「一般就労」と、低賃金で自立に至らない「福祉的就労」に二分されております。その中間、就労移行支援、そして就労継続支援Ａ型は本土では障害者雇用の切り札的存在でありますが、対馬にはありません。一般就労だけでは働く意欲があってもハードルが高く中軽度の障害でないと働けない。一方、福祉的就労だけでは賃金が低く経済的に自立できない課題があります。

その挾間を埋める支援を考える必要がありますが、議論をすればするほど、いかに厳しいかということが浮き彫りになってまいります。そもそも障害者が、自立して生活するための基盤がこの対馬には欠けております。国の法律によるところが大きく、行政・議会としてどうすることもできない状況ですが、無力感で何もしないのではなく、障害者の御家族に寄り添って、現行法の中で最善の方法を探っていかなければならないと思っております。

本土の特別支援学校に通っている生徒も、対馬での一般就労の壁が厚く、本土の入所施設で生活して対馬に帰れない人もかなりいるようです。今、対馬の虹の原の先生方が職場開拓をしてお

りますので、今後、本土の卒業生にも、対馬での就労の可能性が高くなってくるのではと期待をしております。

職場体験の受け入れから職場実習、就職、雇用の定着までを勝ち取るためには、いろいろな関係機関と連携して取り組んでいかなければなりません。関係機関の一部を申し上げますと、当事者と企業、地域とをつなぎ、全体をコーディネートするところが障害者就業生活支援センターであります。また、一人一人の職場への適応を援助し、定着を図るジョブコーチも必要です。何より、協力していただく企業を開拓する職場開拓員も必要です。この職場開拓については、本市も少なからずかかわるべきと考えておりますが、学校の先生方に大きく依存しているのが現状ではないでしょうか。

ここでお尋ねいたします。

１番目に、全体をコーディネートする「障害者就業生活支援センター」は、この対馬にはありません。このセンターの設立には壁があると聞いておりますが、市としての実行支援をどのように進めていこうとお考えでしょうか。

２番目に、率先して民間企業に範を示すべき立場として、本市においても、雇用も視野に入れた、職場実習の場として市役所等を提供するお考えはありませんでしょうか。市長の所感をお伺いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　黒田議員の質問に答えさせていただきます。

１点目の観光という視点でございますが、おっしゃられたように、以前の「通過型観光」から「着地型観光」に変わっていく中で、私常々インバウンドの整備をどのようにしていくかということをいろんなところにも話を、ＮＰＯとか、いろんなところに話はずっとしてきたところでございます。しかし、まだまだそのあたりの部分について、対馬の中で方向さえもまだまだ見えないというふうな思いがあります。

そういう中、御質問の中にありました、そのあたりのコンテストといいますか、そういうお話もございましたけれども、ある一定の芽生えが見えた段階で幾つかの例が出てきた段階でのお話として考えていきたいと思っております。

それと、大きな話として、今の韓国から１万数千名、月にお見えになる、このような状況から本当突然昨年のようにゼロになることもあり得るわけでして、いろんな要因を私どもの島は日本ははらんどるんではないかと思ってます。そういう意味において、慌てることのないように観光産業を、この機に育てていくということも、行政の大きな役割というふうにとらえております。

そういう中、このＷｉ―Ｆｉのお話がございました。これにつきましては、明らかに韓国のほうがＩＴ先進国ということで、多くの方がタブレットを持って動かれる、日本よりもすでに多い

というふうな状況があります。Ｗｉ―Ｆｉの環境が整った社会的な要因というのは、日本のような戸建ではなくて集合住宅ゆえに、Ｗｉ―Ｆｉ環境が整ったということもあるそうでございますけれども、何はともあれＷｉ―Ｆｉの環境は整ってるというのは事実であります。そういう中、このＩＴの問題については、やはりもう十数年前からいろんな動きが日本の中でもありました。そして、私自身もＷｉ―Ｆｉといいますか、無線ＬＡＮを構築するために、実は友人たちとそれこそ八木アンテナを何本も立てたことがあります。いろんなビルの屋上に上って行って設置をし、それをつないでいくというふうなことをしましたけれども、ビルの陰になりますと全く直進性が強い電波なものですから、つながらないという問題があり、とてつもない数これ要るなというふうに当時頭を抱えた記憶が今よみがえってまいりました。

で、そういう中、Ｗｉ―Ｆｉの環境については、この５月に厳原港と比田勝港のこのターミナル内にＷｉ―Ｆｉの環境を整備をいたしました。Ｗｉ―Ｆｉにつないで、それからの問題でございますけども、１回さまざまな情報をダウンロードしてもらいながら、島内各地をめぐっていただくというふうなことで組み立てを今後していこうと。ハードについては、この５月にでき上がりましたので、今提案しております予算の中で、ソフトの構築をしていきたいというふうな思いでおります。どうかして多くの方たちが、マルチ言語という言葉がありましたけども、世界中の方が使えるような形が一番いいのでしょうけども、まずもってこのそれこそ９９対１ぐらいの割合で入ってこられているお客と考えれば、その割合からまず構築をしていくということを組み立てていきたいと思っております。冒頭言いましたように、慌てることのないように、この時期に逆にそのベースをつくり込んでいきたいという思いで取り組まさせていただきたいと思います。

２点目の発達障害、知的障害の障害者の就労の問題でございます。これに市としてどのようにかかわっていくのかというふうなお話でございますが、もう既に黒田議員は御存じのように、就労移行支援というものと就労継続に対する支援というこの二通りがございます。継続支援については、社員としての雇用のＡ型と、非雇用、訓練とかリハビリを目的としたＢ型に二つに分けられております。現在対馬において指定を受けているのは、この継続支援のＢ型の事業所のみであります。Ａ型の継続した雇用、社員としての雇用を提供するＡ型というものはありません。ここには雇用契約を行う場合の最低保証賃金の支払いや保険等が発生するため、やはり企業のほうにとってのその経営面への圧迫が大きく、なかなか手が上げられない状況ということであります。

また、先ほど議員がおっしゃられたように、ことしの４月には対馬にも待望の特別支援学校の対馬分教室がやっと開校いたしました。確かに開校させるだけが目的ではなくて、最後はこの障害を抱えた方たちが就労をしていく姿というのを私ども行政としては求めていくのが本来の姿であります。この分教室につきましては、あくまで一里塚であるというふうに自分自身も考えておりますが、先ほど申しましたように、経済状況が厳しい中、雇用情勢、対馬の今の一般的な雇用

情勢も考えますと、現時点においては大変厳しい状況にあります。また、国を挙げてノーマライゼーションの考え方を、本当で広く国民、市民の方に広げていくことが、行政、政府の役割であろうと思います。私どももそこに対してはしっかり取り組んで今後はいきたいと思っております。

また、行政としてどのような就労を考えてあるかというお話もありました。先ほど、先ほどといいますか、先日報道等で障害者の雇用率ですね、これを引き上げるために国や地方公共団体においては、以前の２．１％という率を２．３％に引き上げますというふうな方針が国のほうから出されております。現時点において私どもの対馬市は、２．４２％であります。クリアしているからいいという問題ではなくて、私どもも障害者一般の採用についても、障害者枠等を設けて公募をかけている状況であります。今後もそのような取り組みはしっかりとやっていきたいと思っております。

また、発達障害、知的障害の方々が、どのような雇用の場があるのかなというふうなことも、私どもの中でも話をする機会はあるわけですが、どうしても限られてはくるとは思いますけれども、その可能性というのを幾つか職員も出してきたところであります。それらが可能性があるかどうかをしっかりとまた分教室の先生方と協議をしていきながら、そこは詰めていきたいというふうに思っております。決して分教室の先生方にすべてをゆだねてしまうというふうなつもりもございません。そして、先ほどの黒田議員の質問の中にもありました障害者家族の方に寄り添ってという文言がございましたけども、まさに行政としてそれらの方々、御家族に寄り添って考えていきたいと思ってます。誰しも知的障害、発達障害の子供らといいますか、を持つ可能性というのは等しくあるわけでして、そういう思いをきちんと持って寄り添っていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　ありがとうございました。なかなか厳しい問題でありますので、思いだけはしっかり受けとめをいたしました。

それでは、順番に行きたいと思うんですけども、私は韓国人の旅行客に対して、皆様方もそうだと思うんですが、賛否両論ですね、悪いこともいっぱい聞いてまいりました。大概その悪いことをおっしゃるというのは、ほとんど自分に利益が来ないという、そういった意味で韓国人のマナーに対してちょっと腹が立つのでしょうけれども、私としても冒頭申し上げましたが、何とかして市民一人一人というか、旅館業、また農林水産業の方、また観光を仕切るような方、広くお金を落としてもらえるような視点もという思いでこのＷｉ―Ｆｉですね、「観光アプリ」のこと、また着地型、体験型の観光ということで質問したわけでありますけども、この「観光アプリ」なんですけれども、対馬の魅力を届けていくと思うんですが、それを本土の日本人ですね、本土の

日本人の人が見て、また対馬に行きたくなることもあろうし、対馬の人が見られて伝えていくこともあるでしょうから、先ほどまずは韓国語だけというお話でしたけれども、ぜひ日本語の対応も一緒にしていただきたいなと思っておりますが、それについては予算がかかり過ぎるからしないのでしょうか。それとも、商工会の皆さんが否定してるといいますか、要らないという思いを受けとめて、今市がそういう韓国語だけという思いで立ってらっしゃるのか、そこのところを検討する余地がないのか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今回、県１５０万円、対馬市１５０万円で県の観光連盟が事業主体となって取り組みますスマホのアプリケーション制作につきましては、日本人観光客が要らないとか、そういう決して意味ではなくて、経費的な問題で、まず当面来てあるお客様を対象に、そして納得させれるソフトをつくれるかどうかを、これできちんとやった後に次のマルチ言語という、黒田議員がおっしゃられるそちらに入っていきたいという段階を踏んでいくという意味で御理解をいただければと思います。

○議長（作元　義文君）　３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　予算がかかり過ぎるということで、いたし方ないかなと思っておりますが、そこの辺のことを今後の課題として受けとめていただきたいなと思っております。

ちょっと関連する質問をちょっと２点させていただきたいんですが、本市の職員の中で、韓国語を話せる達人の方が若干おるということは聞いております。もう人数は結構です。どのようにそういう方を、たくさんいらっしゃる韓国人観光客に対して活用されているのか。また、少ないのはもうこれも重々承知しております。今後の韓国語を話せる人を育成するといいますか、どうそこの辺を取り組んでいこうと思っていらっしゃるか、ちょっと質問をいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　韓国語、語学力の向上という部分で、そして、また話せる人の育成というお話でございますが、確かに何人かは達者、達人とまではいきませんけども、達者な方は職員の中でいらっしゃいます。そして、それぞれのその活かせる形で部署には現時点ではかかわっていただいていると思います。また、まだ足りないと実際思います。そういう意味においてハングル講座等に積極的に参加をしていってもらいたいという思いがあります。今も下のほうと上のほう、それぞれハングル講座があります。うちの国際交流員のほうも昼夜を問わずハングル講座を実施し、また、子育てグループなんかのところまで出向いてハングル講座をやっております。職員のみならず、すそ野を広げるために、しっかりと取り組んでいただいていると思います。

語学の場合は、その方のまた何ていいましょうか、能力の部分も感覚といいますか、ありますので、ずっとかかわってても全く進まない私のような人間もおりますし、ちょこっとだけかじっ

ただけですごく伸びる職員もおります。そういう意味においていろんな場面で行政交流セミナー等もずっと行っておりますけども、そういう場面場面で興味を持っていただいて、そのお付き合いが始まる職員同士で交流をしていきながら、さらに語学のほうまで入っていってもらうというふうなきっかけづくりを現時点ではさせてもいただいておる次第であります。

○議長（作元　義文君）　３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　今の、今講座があっているということは私も存じておりますが、中途半端な勉強では、話せないというのは、もちろん、市長がおっしゃったとおりだと思います。実は、私も子供のホームステイもありますし、受け入れもいたしました。そのたびに勉強せんにゃいかんなと思ってしてきたんですけども、やっぱり中途半端でございます。何とか長期語学研修ですとか、これだけ日本の中で私たちぐらいの人口単位からすれば、指折りだと思うんですけども、それでもまだいろんな所、国とか県の（聴取不能）のないということを韓国とかからもお伺いしましたが、これだけ観光客が来てるわけですが、何か費用対効果にも耐え得る話でもありますし、語学を学ばせるという、習得させるという意味合いから、半々で折半するとか、いろいろな工夫をしながら韓国語を話せる人をどうかふやしてほしいなと思っております。これは市長に言っても始まらないので、今後国とか県とか働きかけをしていただきたいなと思っております。

それともう１点、対馬観光物産協会を厳原港に置くという話をちらっと計画を聞きました。現在というかもう過去からずっとなんですけれども、やっぱりここの物産協会の窓口というのは、私は観光案内所の体をなしていないのではないかと。というのも、一番観光客が集まるたまり場となってるのは、まず両港であろうと思います。あとはもうティアラとか、上のほうはちょっと私もよくわかりませんけれども、そういう一番観光客が多いところに案内所がないというのは、私はこれはいかがなものかなと感じておりますが、この観光案内所ということについて、外国人に対応する、この点について市長のお考えはありませんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１点目の長期研修というお話がございました。で、できれば制度としてきちんとつくっていただければ、国のほうにも、助かりますが、今の韓国とのこれからのずっと歩みを考えますと、今釜山事務所、うちも抱えておりますけども、こちらの現地、私どものほうから逆に向こうに出向いて、今現地職員２名で対応しておりますけども、こちらから行く時代も早晩あるんだろうなというふうに感じております。

２点目の物産協会は人が入ってくる港とか、そういうところに設置したほうがいいんじゃないかというお話がございました。今年度案内所ですね、案内所を港のほうに夏から、８月ですかね、早ければ夏から８月から設置をしたいというふうなことで動いてはおりますけども、観光協会そのものをという考えには至っておりません。

と申しますのは、数日前の一般質問の中でも出ました、丸和跡地の活用方法の中に、観光物産協会、要するに全体の案内ができるような形で物産協会をそちらのほうに移動をしてもらって顔となっていただきたいということで、今組み立てをしてるものですから、港のほうには案内所というものは、今年度設置することで対応をしていこうと考えております。

○議長（作元　義文君）　３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　実は私もそこまでは求めてなかったんですけれども、以前商工会の事業のほうで、ハングルのサポートセンターというのを、ティアラのほうで置いておいたというのを聞いておりますけれども、韓国人観光客の最前線に観光案内所を置いたほうがいいのではないかなというのが、思っておりますけれども、ただティアラにも案内所までとは言いませんけども、多い曜日のときですね、簡易カウンターといいますか、よく福岡空港のほうで、旅行者としての受付カウンター、簡易なですね、私もそういうイメージでの対応が経費的にも機動的にも、すぐお客さんと一緒になってお話ができますので、そういうイメージで描いておりました。これも韓国語ができなかったら非常に役に立たないんでしょうけれども、観光関係の職員でなくても商工振興にも韓国人がものを買っていけばそういうこともつながっていきますし、組織の垣根を越えて全庁的な思いでこの案内には取り組んでほしいなと思っております。

ちょっともう次に移らせていただきます。

実は、私自身驚いたわけなんですけども、五島の特別支援学校の一般企業の就職状況を調べたんですけども、開校が１９年なんですが、２３年度まで、合計１１名が一般企業に就職をなされております。それを聞いたときに、私も「各種助成金等で何とか就職できたんだろうけれども、もう四、五年も経ってますので、今は辞めていらっしゃるだろう」と思って確認をしましたところ、「残念なことに１名だけは辞めました」と。でも個人を狙い撃ちではなくて、その会社は業績悪化ということで、ということをお伺いしました。要するに１１名中１０名が補助金、助成金が切れても普通に働いていることになります。本当に私もびっくりいたしました。

勤め先は、弁当製造業、清掃業、スーパー、老人ホームなどです。このことを当事者の対馬の親御さんにちょっと私も話してみたところ、「弁当屋は一番向いてるんじゃないかな」と、「彼らは弁当がこの位置だと言ったら、ちょっと曲がってたらもう許せないからね」と、「職人さんと思ったらいいよ」というお話を聞きました。ああ確かにそうだなと私も思いました。知的障害の方々の特徴といたしましては、皆さん御承知のとおり、繰り返し反復業務を得意とするというか、そういう傾向があるというところはかなり広く知られている話ですが、それが島内の企業にどれだけ知られているかということは、いろいろ誤解もあるのではないかなと私自身感じております。

私も先日、ＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）という病気、をいづはら病院さんの研修で学ばせて

いただきましたけれども、全身の筋肉が麻痺をされます。自然とですね。おのずと顔も無表情になります。そのお顔の表情だけ、テレビでしか見たことなかったのですが、感情もなくなるんだろうと私も思っていましたところ、亡くなる最後の瞬間まで感情は残ると聞きまして、本当に申しわけない認識をしてたなということを感じました。何かに縁をしないと、誤解、偏見のままだと思います。そのようなところを多分福祉保健が所管になるかと思いますけれども、今後市長も一生懸命すべて学校の先生にゆだねませんという御答弁もいただきましたので、どういう所管の方がその職場開拓をしていただくかわかりませんけれども、そういうときに障害者といったらちょっと哀れんだりしますけど、この五島市のように、立派に働いているという、そういうことをぜひ職場開拓のときとか、啓発セミナーのときに取り組んでいただきたいなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　この私どもが生きてる社会の中で、その子らに対する誤解とか偏見とかいうものがなくなって、そして、きちんとその子らに見合った就労というのはあるはずでございます。そういうのを探しながら、そして、それぞれの御家族の方たちも明るい生活、笑顔が出るような生活ができるようにしないといけないと、それがまた私どもの役割の一たんであるというふうに思っております。

昨日ＢＳのほうで流れておりました、ブータンの特集がずっとあっておりました。国民みんなが自分らにとっての幸福というものは何なのかという、私どもにとってはこういうのが幸福なんだ、それぞれの家によって違う。そこに向かって行政側も支援もするけども、自分らもそこに向かって走っていくということの番組だったというふうに私は理解しましたけども、多くの御家庭の方たちにとっても、そのような子供たちを抱えざるを得ない状況になった家庭の人たちにとっても、改めて幸せだったと言えるような形をつくっていきたいというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　最初に、どうして市役所等がいいかということですけれども、まず一般企業だと、私もそうでしたけども、大体１０年間ぐらいは罵声が普通です。それはもう市役所でもそうだと思います。安全とかお客さんにこうしてはいけないという部分はやっぱり厳しく私も教えられてまいりました。そういった意味で、一般企業だと大変にやっぱり厳しいと。先進地の事例で喜びの声といたしまして、「役所の方は優しく迎えてくれた」と、「役所では安心して仕事ができた」といった、行政に対する安心感といいますか、信頼を寄せる声が上がっております。それと福祉保健部が所管になるかと思いますが、企業の社長さんに職場体験の受け入れを今後お願いしていくからには、まずその本市がみずからを範を示すべきであろうと思ったからであります。

もう一つ、ここで誤解をしてもらいたくないことがあるんですけれども、特別支援学校を卒業する上で、やっぱり一般就労というのは、この五島市は私はすごくすごいところだと思います。ほかの自治体もずっとインターネットで調べましたが、やっぱり厳しいです。実際に「罵声を浴びて辞めていく」という時代が、ずっと何年かあったようでございまして、「あえて罵声を浴びせて耐えさせる」という訓練もなさるということです。障害があるから大目に見るのではなくて、社会に出て通用しないことを今のうちに直すという経験をさせるといいます。健常者の生徒より劣る面は確かにありますけども、その反面打たれ強く辛抱強いということが、実際に雇用してらっしゃる企業の方もおっしゃっております。五島市はその結果のあらわれではないかと思っております。

対馬に、もう最後申し上げますが、創立の年であります。もちろん本人にとっても命がけといいますか、必死だと思います。御家族にとっても必死だと思います。で、学校にとっても、もうこれが唯一の先生方の望みですので、それから、後に続く２年生、１年生、これから今の対馬の教育委員会で特別支援教育を受けております、そういった子供たちの後にも、この創立のこの年に就職する、来年はですね、これは非常にこの１年というのは非常に大事になってきます。どうか市としても、この１年ですけども、一番力を一気に注いでいただきたいなと思っております。

以上で終わります。

○議長（作元　義文君）　これで黒田昭雄君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。開会を１１時５分から行います。

午前10時52分休憩

午前11時04分再開

○議長（作元　義文君）　それでは、再開します。

最後の登壇者です。１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　それでは、通告に従いまして、市政一般について質問を行います。

一つ目は、北部対馬の観光振興についてお尋ねをいたします。

昨年私は１２月定例会一般質問の折、韓国観光客の流入と北部対馬の浮揚策の一つとして、宿泊施設の充実について市長に問いただしたところ、ホテル等の誘致の計画は現在のところ「ない」との回答でありました。調べによりますと、上対馬地域には宿泊９施設の３００人程度の受け入れ規模と聞き及んでおります。そのうち現在韓国の観光客は１５０人程度しか宿泊しておらず、比田勝港を上陸された観光客は、ほとんど大型バスに乗り厳原方面へと移動、または日帰り